



1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	特別養護老人ホームさくら苑増築及び有料老人ホーム(仮称)さくら苑新築工事		階数	5	
建設地	札幌市西区発寒17条3丁目936-21、-42、-49、-1、-2、-54		構造	RC造	
用途地域	準工業地域		平均居住人員	71 人	
建物用途	病院		年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
竣工年	2020年4月	竣工	評価の段階	竣工段階評価	
敷地面積	7,034 m ²		評価の実施日	2019年6月10日	
建築面積	547 m ²		作成者		
延床面積	2,314 m ²		確認日	2020年4月25日	
			確認者		

「配慮シート」に
外観パースを張り付けて下さい。

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
BEE = 0.6 ★★★★★ B- S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境効率 環境負荷 L	☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆ 実施設計段階 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 このグラフは、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量を評価者自身の計算(個別計算)により算出した結果を示しています。LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート(個別計算)」を参照されたい	性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR3 敷地外環境 LR2 資源・マテリアル
		2-4 一次エネルギー消費量の評価 建物全体の[BEI][BEIm]= 0.86

2-5 中項目の評価 (バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.4 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.6	LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.4 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8	Q のスコア= 2.4 LR のスコア= 2.7
音環境 2.6 温熱環境 1.9 光・視環境 3.0 空気質環境 2.6	機能性 4.4 耐用性・信頼性 2.5 対応性・更新性 2.5	生物環境 3.0 まちなみ・景観 1.0 地域性・アメニティ 1.0
建物外皮の熱負荷 1.0 自然エネルギー 3.0 設備システム効率化 2.7 効率的運用 3.0	水資源保護 3.0 非再生材料の使用削減 3.2 汚染物質回避 2.9	地球温暖化への配慮 3.4 地域環境への配慮 2.0 周辺環境への配慮 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 - 平面計画は、機能的にコンパクトにまとめ面積効率の向上を図る。 - 構造架構を単純明快にし、耐震壁を利用したラーメン構造としコスト削減を図る。 - 窓などの開口部は、室内環境を考慮しつつ最低限として省エネルギー化を図る。	A 省エネルギー - LED照明の採用。 - 換気設備において熱交換型を一部採用。	
B 省資源等 特になし	C 緑化 札幌市条例に基づき植栽計画を行う。	D 雪処理 特になし。

4 ほかの認証・評価制度の利用		
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証
上記以外の認証・評価制度の利用	エネルギー使用の合理化に関する法律	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0							
特別養護老人ホームさくら苑増築及び有料老人ホーム(仮称)さくら苑新築工事		欄に数値またはコメントを記入		■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)					
スコアシート		竣工段階							
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質							2.4		
Q1 室内環境				0.40		-	2.4		
1 音環境			2.6	0.15	2.6	1.00	2.6		
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2 遮音			3.0	0.40	3.0	0.40			
1 開口部遮音性能			3.0	0.40	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能			3.0	0.60	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音			1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境			1.8	0.35	2.0	1.00		1.9	
2.1 室温制御			2.2	0.71	3.0	0.50			
1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57			
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.25	3.0	0.43			
3 ゾーン別制御性			1.0	0.38		-			
2.2 湿度制御			1.0	0.29	1.0	0.20			
2.3 空調方式			-	-	1.0	0.30			
3 光・視環境			3.0	0.25	3.0	1.00		3.0	
3.1 昼光利用			3.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光率			3.0	0.60	3.0	0.60			
2 方位別開口				-		-			
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光制御	省エネ		3.0	1.00	3.0	1.00			
2 映り込み対策				-		-			
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境			2.8	0.25	2.5	1.00	2.6		
4.1 発生源対策			3.0	0.50	3.0	0.63			
1 化学汚染物質			3.0	1.00	3.0	1.00			
4.2 換気			1.0	0.30	1.6	0.38			
1 換気量			1.0	0.50	1.0	0.33			
2 自然換気性能				-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			1.0	0.50	1.0	0.33			
4.3 運用管理			5.0	0.20		-			
1 CO ₂ の監視				-		-			
2 喫煙の制御		建物及び敷地内禁煙	5.0	1.00		-			

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.3
1 機能性			4.4	0.40	4.6	1.00	4.4
1.1 機能性・使いやすさ			5.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性	居室の基準面積13.0㎡を超える広さを確保する。 居室に収納を設置、共用部に必要な倉庫を設けている。		-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応			-	1.0	-	
3	バリアフリー計画	札幌市バリアフリー基準により計画している。	5.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			4.0	0.30	4.0	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	周辺の環境に合わせた色彩計画及び窓を大きく取り解放的にしている。		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画	老人福祉施設らしく清潔感のある明るい色彩計画とし、照明計画と一体として検討している。	4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理			4.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計	内装仕上げはすべりにくく、清掃しやすい長尺塩ビシートとし、壁天井はビニールクロスとして、張替等が容易にできるようにしている。	4.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保	清掃用具ように収納を設け、給水給湯設備及び掃除流しを設けている。 専用部以外の設備は共用部から維持管理できるようにしている。	4.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.5	0.30	-	-	2.5
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			2.0	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		-	-		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.25		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.13		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.13		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	-	0.25		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.25		-	
2.4 信頼性			2.4	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			2.8	0.30	2.2	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり			2.4	0.43	2.4	0.50	
1 階高のゆとり			2.0	0.60	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	2.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	0.57		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		構造部材を痛めることなく修繕・更新ができるようにしている。	4.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.6
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		1.0	0.40		-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.0	0.30		-	1.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		1.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	2.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ		1.0	0.20		-	1.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.86 -	2.7	0.50		-	2.7
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	1.00		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		-	-		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	-		-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60		-	3.2
2.1 材料使用量の削減	省資源	コンクリート強度21N/mm ² 以上、首位有鉄筋はF=590以上を用いる。	4.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	省資源	内装材と設備を錯綜せず、容易にそれぞれ取り外すことができる。	4.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			2.9	0.20	-	-	2.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤各種、シーリング材各種、防水工事材各種、建具・木部塗装、構造体の塗装は有害部室を含まない材料としている。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		-	-	-	-	
3 冷媒	省資源		2.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮	省資源	評価シート自動計算による。	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			2.0	0.33	-	-	2.0
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 管理		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		1.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		来客及び管理用駐車場を確保している。 駐車スペースは十分な広さを取り案内サインを設けている。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 管理	必要な大きさのゴミボックスを設置。産廃ゴミ庫を廃棄物と再利用物を別々に設けている。	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
1 騒音			-	-	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67	-	-	
1 風害の抑制			-	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.33	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	1.00	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	-	-	-	



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要

建物名称	特別養護老人ホームさくら苑増築及び有料老人ホーム(仮称)さくら苑新築工事	BEE	0.6	BEEランク	B ⁻
建物用途	病院.				
延床面積	2,314.3 m ²				

2 重点項目への取り組み

レーダーチャート



3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー（ 最高点 23.4 最低点 7.4 ）				合計		11.9点 / 23.4点	
Q1 温熱環境	スコア	0.8 / 1.3	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	0.8 / 4.0		
Q1 光・視環境	スコア	1.3 / 2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 / 2.0		
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	5.4 / 10.0		
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 / 4.0		
B 省資源等（ 最高点 23.8 最低点 8 ）				合計		12.6点 / 23.8点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.5 / 1.4	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.8 / 9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.5 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	0.8 / 1.7		
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.4 / 5.0		
			LR3 地域環境への配慮	スコア	1.6 / 4.4		
C 緑化（ 最高点 15.3 最低点 3.1 ）				合計		4.9点 / 15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.5 / 2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	1.2 / 6.0					
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.5 / 2.3					
D 雪処理（ 最高点 3.0 最低点 0 ）				合計		2.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 / 2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数